

コロサイの信徒への手紙シリーズ Part 6

1:29 このために、私もまた、自分のうちに力強く働くキリストの力によって、労苦しながら奮闘しています。

2:1 あなたがたとラオデキヤの人たちと、そのほか直接私の顔を見たことのない人たちのためにも、私がどんなに苦闘しているか、知ってほしいと思います。2:2 それは、この人たちが心に励ましを受け、愛によって結び合わされ、理解をもって豊かな全き確信に達し、神の奥義であるキリストを真に知るようになるためです。2:3 このキリストのうちに、知恵と知識との宝がすべて隠されているのです。2:4 私がこう言うのは、だれもまことしやかな議論によって、あなたがたをあやまちに導くことのないためです。2:5 私は、肉体においては離れていても、霊においてはあなたがたといっしょにいて、あなたがたの秩序とキリストに対する堅い信仰とを見て喜んでいきます。

「苦労」と言われるとどんなことを思い浮かべますか？多くの場合、人生で何らかの苦難に直面したとき、その苦難を問題だと考えがちです。しかし、苦労するということは、良いことでもあり、悪いことでもありえます。苦労することではか得られないものがあります。トイレのしつけで苦労しなかった親はいないと思いますが、苦労の末に得られるものはとても良いものだと思います。人生で直面しうる他の多くの事柄についても同じことが言えます。それでも、いったん苦労を乗り越えると、その苦労の向こう側に喜びや楽しみを発見することができるのです。しかし、苦労することが確かに悪いことである場合もあります。悪い習慣を断ち切ることができず、何度もその悪い習慣に逆戻りしてしまうときです。実際、その苦労は私たちを苦しめます。先ほどのテキストを読むと、パウロが教会のために奮闘していることがわかります。パウロは教会が何かを学ぶことを望んでいて、学ぶ過程で彼らは何かを得ることになるのです。パウロは、教会がキリストのすべてを受け入れるために奮闘しました。もう一回言います。パウロは、教会がキリストのすべてを受け入れるために奮闘したのです。教会はイエスが誰で、何をされたかを知る必要があります、その知識から、これから来るすべての問題と困難に立ち向かうことができるというのがパウロの考えでした。

今日の箇所では、使徒パウロはこれから教会が直面する課題について考えています。彼は、教会がイエスという方のすべてを受け入れられるように励んでいます。今日の箇所を具体的に掘り下げる前に応用と言える部分はこれです：もし、キリストを完全に受け入れるなら、私たちの人生で起こるすべての困難に備えることができる。もし私たちがキリストを完全に受け入れるなら、私たちの人生で起こるすべての困難に準備することができるのです。

今日はコロサイ人への手紙 1:29 と 2:1 から始まります。パウロは教会のために奮闘していると言っています。「このために私は奮闘（労苦）しています」です。何のために労苦している

のでしょうか。それは 28 節にあるように、すべての人がキリストにあって成熟するためです。すべての教会が成熟し、教会のメンバーが成熟した弟子となることがパウロの目標でした。

なぜそんなに奮闘しなければならないのでしょうか。それには、いくつかの理由があるでしょう。まず、コロサイ 2 章 1 節には、顔を合わせたことのない人がいるとあります。また 5 節で続けて、彼は肉体では教会から離れていると言っています。つまり、教会から離れているために、より働かなければならなくなったのです。使徒パウロが奮闘している、あるいはこれを労苦と思っている理由のもう一つは、この働きに勤勉さと一貫性が必要だからです。

奮闘するとは、必ずしも一生懸命働くことではありません。一貫した仕事という意味もあります。使徒パウロは 1 章 25 節ですでに「私は、あなたがたのために神からゆだねられた務めに従って、教会に仕える者となりました。神のことばを余すところなく伝えるためです。」と述べています。その働きはかなり大変なものです。神の御言葉を十分に知らせるという仕事を、彼がどのような使命感やプレッシャーを持って行っていたのか、私には想像もつきません。そのようにして、その働きには一貫性と継続性が必要とされていたのです。パウロの働きのこの時点で、彼はローマの獄中で苦しみながら、これから自分に何が起こるのか、様々な不安を抱えながら活動しています。ですから、獄中からキリストの福音全体を諸教会に伝えようとする彼の願いは、かなり困難な課題です。しかし、彼はこれを一人でやっていたわけではありません。彼自身の働きではなかったのです。それは神の働きでした。

29 節でパウロは「このために、私もまた、自分のうちに力強く働くキリストの力によって、労苦しながら奮闘しています。」と言っています。このパウロの言葉を聞けば「なんと、使徒パウロは信じられないような人だ！」と思うでしょう。信じられないようなクリスチャンです。彼は神の力を持っているのです。使徒パウロはすごい人ですね。でも、私たちも同様の力を持つことができます。しかも、私たちの中にはすでにこの力が働いていると私は思います。

なぜそのようなことを言うのでしょうか。まず第一に、パウロは 1 章 24 節で「ですから、私は、あなたがたのために受ける苦しみを喜びとしています。そして、キリストのからだのために、私の身をもって、キリストの苦しみの欠けたところを満たしているのです。キリストのからだとは、教会のことです。」と言っているからです。前回この節を見ながら、パウロはキリストの中に、キリストはパウロの中にいるのだから、パウロの苦しみは実際はキリストの苦しみであり、キリストの名のもとに耐えているということは、本当はパウロの苦しみではない、とお話しました。パウロは、それが本当にイエスに属するものであり、イエスが自分の中に働いてそれらのことを行っていると見なしています。そして、今回はこれがクリスチャンであることの意味であるとお話しました。ある意味で、これがキリストの中にいること、イエスと一体であることを意味します。イエスは、ご自身が私たちとともにおられ、私たちもイエスとともにいるとおっしゃっています。その苦しみの中で共におられるその同じキリストが、パウロが行っている働きをするために必要な持久力とエネルギーを彼に与えているのです。ですからパウロは、自分の苦しみをキリストの苦しみととらえ、自分の努力をキリストの努力ととらえているのです。これは単なる考え方の問題ではなく、実際の霊的現実です。私たちがクリスチャ

ン生活を耐え忍ぶことができるのは、神が本当に私たちのうちに働いてくださるからなのです。これは、私たちがキリストの御国で労苦するときにも働いている力なのです。

4 節と 5 節でパウロは「私がこう言うのは、だれもまことしやかな議論によって、あなたがたをあやまちに導くことのないためです。2:5 私は、肉体においては離れていても、霊においてはあなたがたといっしょにいて、あなたがたの秩序とキリストに対する堅い信仰とを見て喜んでいます。」と述べています。では、なぜパウロはこの教会のためにそんなに一生懸命働いているのでしょうか。当時、教会はいくつかの問題に直面していました。そしてこれからもっと多くの課題に直面する可能性がありました。その後について疑問となるのは、どのような課題に直面していたかということです。コロサイ 2 章を通読すれば、何が起こっているのかのヒントが得られます。大雑把に言えば、教会には大きく分けて二つの課題があったと想像できます。ひとつは律法主義、もうひとつはシンクレティズムです。律法主義とは、何がイエスへの信仰で何がそうでないのかについて具体的な制限を加えようとするときに起こります。通常、御言葉で命じられていない行動に対する厳しい規則という形をとります。一方、シンクレティズムとは、人間の哲学や文化を福音と融合させようとするという、教会にとっての問題です。これは特に、福音のメッセージが特定の文化に合うように変えられる場合に問題となります。

このようなことがコロサイ教会で起こっていたのが、パウロがこの手紙を書いている理由の一つです。使徒パウロは、教会がこれらの課題に何らかの形で屈することを懸念しているのです。こういったクリスチャン生活への課題は、なぜそれほどまでに強力なのでしょう。パウロはこれらの課題を「まことしやか」と呼んで真剣に受け止めています。4 節をもう一度見てください。「私がこう言うのは、だれもまことしやかな議論によって、あなたがたをあやまちに導くことのないためです。」つまり、こういった課題がまことしやかであるように人々に訴えかけているのです。可能性があるから、もっともらしいからということが真実であるとは限りません。魅力的な形で提示されると、かなりもっともらしいと思えることはたくさんあります。そして、私たちがクリスチャンとして直面する課題は、私たちの信仰を弱くしたり、目標から目をそらしたりするような形で私たちに立ちまわります。律法主義やシンクレティズムは、現代の私たちにとっても課題です。聖書で明確に教えられていないことで誰かの良心を縛り付けるときはいつでも、一種の律法主義に陥っています。しかし、典型的な律法主義は、他人や自分を十分でないと感じることです。私たちが罪を犯したとき、その反応は悔い改めであり、自分を責めることではありません。イエスの死が私たちに覆っています。神の恵みで十分なのです。一方、私たちは常に教会の教えの中に文化を混ぜ込もうとする誘惑に駆られます。私は、教会に最も広く浸透しているシンクレティズムは、世の考える「繁栄」だと思います。世の文化は、たくさんの楽しみがあるときだけが本当に幸せになれる時、と言います。けれども聖書はキリストのうちにいるときに私達は幸せなのだと言っています。私たちが直面している困難にもかかわらず、私たちには希望があるのです。

コロサイ人への手紙 2 章 5 節でパウロは「私は、肉体においては離れていても、霊においてはあなたがたといっしょにいて、あなたがたの秩序とキリストに対する堅い信仰とを見て喜んでいます。」と言っています。パウロは、彼らと一緒にいなくても希望を持っていました。彼

らはイエスに対する信仰に堅く立っていたのです。彼らには秩序がありました。使徒パウロは彼らのことを心配してはいませんでした。悲しんでもいませんでしたし、彼らのための奮闘は重荷ではありませんでした。パウロは彼らの信仰の堅固さのゆえに喜んでいたのでした。

キリストにある良い秩序と堅固な信仰を持つにはどうしたらよいのでしょうか。2節と3節にはこうあります「それは、この人たちが心に励ましを受け、愛によって結び合わされ、理解をもって豊かな全き確信に達し、神の奥義であるキリストを真に知るようになるためです。2:3 このキリストのうちに、知恵と知識との宝がすべて隠されているのです。」パウロの願いは、神の民の心が励まされることでした。心が励まされる方法として2つのことが挙げられています。まず、愛で結ばれることです。私たちの生い立ちはそれぞれ全く異なりますが、世界中のすべてのクリスチャンに共通することがあります。私たちはキリスト・イエスに対する信仰を持っているのです。イエスは私たちを愛し、救ってくださいました。三位一体の神は私たちを愛してくださっています。その偉大な愛のゆえに、私たちは互いに愛し合うべきであると教えられます。そしてそれ以上にイエスは、互いに愛し合う姿によって、私たちがイエスの弟子であることを世が知るようになると言われました。パウロがここで言っている愛には、いくつかの重要な要素があります。まず、イエスの愛が見本となっていることです。愛とは、自分を低くして他の人に仕えることだとイエスは教えました。イエスは、私たちのために死ぬほどに自分を低くされました。これ以上の愛はありません。2つ目の要素は、神が旧約聖書の中で示された愛です。神はアブラハム、イサク、ヤコブに約束をされました。神は荒野で民に約束されました。ダビデとイスラエルの他の王たちにも約束されました。神は民を大切にし、民と共にあることを約束されました。神は、時に人々を懲らしめなければなりませんでした、それでも常に約束を守られました。最終的には、ご自分の民のために御子を死なせてまで、神は約束を守られたのです。もし私たちがこのように愛することを学ぶなら、私たちは忠実に約束を守り、喜んで互いに仕えることができるようになります。この愛の描写のどこに愛があるのだろうかと思う人がいるかもしれません。私が話してきたことは、約束を守ることと仕えることばかりです。キリストの私たちに対する愛、民に対する愛の深さを理解すれば、どこに愛があるのかがわかります。愛とは、単なる熱狂的な感情とは異なります。かといって決して感情には劣らない、魅力的な感情以上のものです。神が民を愛するように愛することは、他者に良いことが起こるように願うことです。パウロは、心が愛で結ばれているとき、私たちは励ましを覚えると言っています。教会にいるすべての人が無欲で奉仕と福音への忠誠のために力を合わせると、すべての人が一つになります。私たち全員が互いに気を配り、仕え合うことによって、私たちの人生が共に織り上げられるのです。

励ましを得る方法の2つ目は「理解をもって豊かな全き確信に達し、神の奥義であるキリストを真に知るようになる」ことです。これまでコロサイ1章と2章で、パウロはイエスを神の奥義として2回言及し、他に少なくとも2回、イエスが誰であることを説明してきました。35節ほどの間に、少なくともその半分は、イエスがいかに重要であるかを思い出させることだけに使われているのです。今回は、ほとんど新しい説明が加えられていません。パウロは、キリストのうちに知恵と知識の宝がすべて隠されていると言っています。キリストの知識と理解には、豊かな全き確信があるということです。キリストを知ることによって私たちは励まされるとパウロは名言しています。日本では「悩み」という言葉をよく耳にします。説教の中でも

聞きますし、街で耳にする人の会話からも聞かれます。あらゆる状況で、自分が何をすべきなのかわからないのは当然です。先のことは分からないのだから、あらゆる状況でどうすべきかわかろうとはできません。友人と敵の区別がつかないことだってあります。キリストにあれば、これらすべてについて助けがあります。人生のすべての段階について具体的な答えが与えられるわけではなくても、前進するための力と、歩みを導くためのより高い目標が与えられます。私たちは、日々の苦悩や不安から目を上に向け直すべきです。もし私たちの心がキリストのもので満たされていれば、私たちの人生にとって本当に大切なものは何か、また直面している問題は何かをより明確に見ることができるようになるのです。

ここで、「キリストの知恵と知識の豊かさを受け入れ理解する」という考えを、抽象的な話からより実践的なものにしていきましょう。これを受け入れるために、何ができるでしょうか。これを持ち続けるために何ができるでしょうか。まず、私の考えはこうです：「聖書の神学を取り入れるべきである。」ですから、もし励ましを受け、私たちに向かって出てくるまことしやかな議論に立ち向かいたいのなら、聖書の神学に身を捧げる必要があるのです。神学はわからないと言うだけでは不十分です。私たちには決して理解できないことが多くあります。誰かに聞かれてもすぐには答えられないことがたくさんあります。すべての答えが分からなくてもいいのです。すべての答えを持っているはずもないのですから。でも、私たちは成長していかなければなりません。私も、すぐに答えがわからない質問を受けることがあります。私たちが神の役に立つための最低限の知識というようなものはありませんが、キリストについて知れば知るほど、キリストからの励ましを受けることができます。私たちは、聖書の勉強をしたり、説教を一緒に聞いたりすることで、共にキリストにあって成長することができます。しかし、私たちに、主についての知識を深めるという責任もあるのです。

次は2つ目です。キリストに頼りすぎて、キリストの知恵と力を使い果たすということはありません。ですから、疑いや恐れ、勝利の時、あるいは日々の生活に追われる時、私たちはいつも主を呼び求めるべきです。キリストの力を超えることはありません。神に助けを求めすぎるといってもありません。何度でも「わかりません。助けてもらえませんか？」と言って良いのです。もし、本当に自分の疑問に対する答えを求め、本当に主を求めるのであれば、願いましょう。神はそこにいてくださいます。私たちが呼びかけると、神は必ずそこにいてくださいます。私たちが呼べば神がやってくると考えるのは、少しおかしく聞こえるかもしれませんが、神は、私たちからの言葉を待って何かをしてくださるわけではありません。神は私たちのしもべではありません。神は私たちの神になりたいと願っておられるのです。私たちと共に住みたいのです。私たちが神と共に住み、神の民となることを望んでおられるのです。そして、この関係において私たちが神に近づけば、神は私たちに近づいてくださいます。

3つ目に、クリスチャン生活を実践することです。さて、これは奇妙なことだと思われるかもしれませんが、クリスチャン生活を実践するとはどういうことでしょうか。それについては、私がお答えしましょう。しかし、クリスチャン生活の実践は、おそらく皆さんがすでに聞いたことがあり、多くの人がすでに実践していることだとわかっておいてください。クリスチャン生活を要約するとこのようなことです：聖書を読み、祈り、教会の sacrament に参加し、そして最後に互いに仕え合うことです。聖書を毎日読み、祈ることは、教会の始まりからキリスト

者が行ってきたことです。皆さんも聖書の読書プランや祈りの指針になるような祈りの本を手に入れることをお勧めします。教会のサクラメントとは洗礼と聖餐式です。サクラメントではなく、礼典という言葉が好き人もいるかもしれませんが、いずれにせよ、主イエスはこれらを実践するよう教会に命じられました。聖書はしばしば、教会で互いに仕え合うよう勧めています。この教会とあなた自身のクリスチャン生活の強さのために、クリスチャンの信仰を実践してください。

最後に、パウロは苦難に備えるよう教会に望みました。私たちはキリストにあってしっかりと立っていなければなりません。パウロは、すべての人がキリストにおいて成熟するように願っています。その目標は、現代の私たちにとっても同じです。ある意味で、パウロがこのコロサイの信徒への手紙を書いたときから、世の中は大きく変わりました。テクノロジーや移動の自由など、様々に変わりました。しかし、ある意味で世界は変わっていません。世にも、私たちの心にも同じ誘惑が存在するのです。福音に堅く立つことよりも、誘惑につられていく方が簡単にも思えます。キリストの上にしっかりと立っていれば、世が私たちを置き去りにしているように感じるでしょう。しかし実は、私たちが世を取り残しているのです。私たちは三位一体の神に向かって押し進められ、天の現実を見つめてこの世を通過する巡礼者になるのです。そして、それに向かって突き進むとき、私たちはこの世を置き去りにするのです。それはあなたにとって難しい考えかもしれません。キリスト・イエスから受け取ったものにしっかりと立ちましょう。この世に引き寄せられそうになったとき、この世を離れたことを思い出してください。私たちは、キリストの御国の民として、この世界を通過しているのです。